

チームで分かち合う喜びが特別な時間と味になる

五感を研ぎ澄ませ自然と向き合う
ジビエに魅せられたハンター

岩田 薫 さん



自分で育てた野菜や釣った魚を食べるように、いつか動物を捕っておいしく食べてみたい。この思いがきっかけで狩猟を始めました。猟友会が狩猟の魅力伝えるイベント「ハンターと歩く里山」に参加し話を聞いたことで気持ちが固まり、夫と共に入会を決定。さまざまな講習や試験を受けて1年後には狩猟免許を取得し、ハンターへの第一歩を踏み出しました。

11月15日から2月15日の狩猟シーズンは週に1回、猟友会の仲間と巻狩りを行っています。獲物を追う勢子とそれを待ち伏せする立間に分かれ行うこの狩りに求められるのはチームワーク。勢子の私は朝から夕方まで山林を駆け回りますが、疲れは感じませんが、寒さに耐えて待つ仲間のためにも、速く正確に追って成功させる。その一心で追いかけて仕留めた獲物を共に喜び、分け合っていて最も心が動きます。

心が動く仲間との狩り

市猟友会でハンターとして活動する岩田さんに話を聞きました。

充実した時間を過ごしながらも、私は猟銃で大型の獲物を仕留められずにいました。夫や同時期に入会した仲間が次々とシカやイノシシを仕留める中、自分は獲物を外し続ける日々。5日先の獲物を逃した時には「この先もずっと仕留められないかもしれない」と自信をなくしていました。

ついに仕留めた獲物

ハンターになって4年目の本年2月。その日はいつもとは違う研ぎ澄まされた感覚があり、不思議なほど周囲がよく見え、よく聞こえました。そして、猟銃を構え150日先の獲物に向かって撃った一発。その瞬間の手応えに確信を持ち、近づく初めにシカを仕留めていました。その後、家族で食べた鹿肉の味は忘れられません。

受け継ぎ伝えたい技と教え

私がハンターとして成長を続けているのは、豊富な知識と技術を持った先輩たちのおかげです。動物ごとの足跡や形跡など、経験で培った感覚を見聞きするからこそ学びが深まります。しかし、ハンターの高齢化は安曇野でも深刻な課題です。先輩の教えを私たちが受け継ぎ、里と里山のつながり



1983年松本市生まれ。2021年から市猟友会穂高支部で活動する。自宅隣の美容室で共に働き、猟友会ではライバルでもある夫と3人の子どもと暮らす。好きなジビエ料理は鹿肉のステーキ。

MEMO
○巻狩り
山を囲んで獲物を一方方向に追う勢子と獲物が逃げた先で待つ立間に分かれ、グループで行う狩猟方法。

を守ってきた狩猟文化を次の世代へ残したい。そして、かつて自分が踏み出したように、次は私が狩猟の魅力伝えて誰かの背中を押ししたい。そんな思いで活動しています。

食のこだわりから始まったハンターへの道。それは今も変わらず私を動かす原動力となっています。これからも「自分で捕った自然の恵みは感謝して絶対においしく食べる」気持ちで大切に歩んでいきます。

受け継がれる価値 地域の宝に触れる

3月21日 新・お宝発見講座 大庄屋山口家



江戸時代に岩原村一帯の庄屋を務めた山口家を見学する講座が開かれ、26人が参加しました。当日は第23代当主で現在も山口家に暮らす山口裕さんが旧家の歴史や間取りを紹介。参加者は松本藩主も滞在した部屋から庭園を眺め、時代を超えて守られてきた歩みを肌で感じていました。参加した宮澤みち子さん(76・堀金三田)と生松文子さん(77・三郷温)は「維持管理など課題もあるけれど、これからも価値を伝え続けてほしい」と願っていました。

次世代のリアルな思い 広がるトーク

3月14日 ワカモノVoice



高校生や大学生が地域への思いや興味があることを自由に話し合うイベントが市役所で初めて開かれました。当日は参加した3人が安曇野の好きなところや今後やってみたいことからトークを開始。話題が広がり、地域を活性化する方法やそれぞれが幸せに感じることを語りました。参加した塚田似奈さん(17・穂高北穂高)は「学校では話さないテーマばかりで新鮮。自分の地域や将来を意識するきっかけになった」と充実した時間を振り返っていました。

病を克服 故郷・安曇野に響く 喜びの演奏

3月20日 市制施行20周年記念事業 上松美香トーク&ミニ演奏 ミニハーブに救われて

市ふるさと観光大使・上松美香さんのトーク&ミニ演奏会(ミュージックボランティア・サポーターズクラブ主催)が豊科公民館ホールで開かれました。上松さんは、アルパ演奏者として活躍していた約10年前に局所性ジストニアを発症。思うように指が動かず、音楽活動を諦めかけていた時に出会ったミニハーブでリハビリを重ね復帰しました。当日は、訪れた約450人を前に「早春賦」やオリジナル曲の「安曇野」など全6曲を演奏。会場はミニハーブのさわやかな音色で包まれました。演奏後のトークで上松さんは「10年ぶりに右手の親指を使って本来の演奏ができた。ふるさと安曇野の皆さんに音を届けられてうれしい」と喜びと感謝の気持ちを語りました。

